

実践のまとめ（第5学年 国語科）

長岡市立前川小学校

教諭 黒崎 幹

1 研究テーマ

読書の価値に気づき、自ら本を手にする児童の育成

～本から得た学びと自分の生活や生き方とを関連付けて考える活動を通して～

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

日常的な読書活動には、本の中で使われている語彙や表現など、多くの言語的知識を得られる“知的な利点”と、未知の世界との出会いを通して考え方や価値観を広げたり、本の中の世界に入り込んで豊かな感情体験をしたりする“情意的な楽しさ”がある。そして、読書で得られた知識や価値観が自分の世界と関連付けられた時、それらの価値をより一層強く感じることができると思う。また、中央教育審議会（2016）において、「読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである」とされたことを受け、学習指導要領（平成29年告示）では、国語科の指導を通して、児童の読書意欲の向上と読書活動の日常化につなげることが大切であるとしている。

しかしながら、手軽に、かつ視覚的に情報を得ることができるYouTubeやタイムパフォーマンスのよいショート動画など、様々なデジタルコンテンツのニーズが高まる中で、児童が情報を収集したり方法や手段を学んだりすることを目的として本を読もうとする意識が低下している。このような社会の変化による本嫌いや読書嫌いの増加は、多様な考え方や価値観に出会う機会を奪い、子どもたちを狭い世界に縛り付けることにもつながると考える。このことから、読書の価値を高めることの必要性がより一層高まっているといえる。本を読むことで得られる“知的な利点”や“情意的な楽しさ”を自覚することは、本を読むことでしか成しえない。まずは、自ら本を手に取り、その内容に興味を傾ける。つまり、本への関心や読書活動に対する意欲を高めることが欠かせないのである。学習活動を通じてその価値にふれ、本から得た学びをこれからの自分の生き方に関連させて考えを深めていくことで読書の価値への自覚を高める姿を目指して、本テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 児童の「読もう」「読みたい」という思いを喚起して充実した読書経験を積み重ね、読書の価値への自覚を高めるために、以下の手立てを講じる。

ア 読書活動に対する意欲を高め、持続させるためのゴールの設定

先人・偉人の考えや行いから学びを得て、成長したり困難を乗り越えたりすることができた教師の体験談を伝えることで、伝記を読むことの意義を捉えさせる。“自分自身をレベルアップさせるために、先人・偉人からの学びをレベルアップシートにまとめる”というゴールを設定することで、自らと関連付けながら伝記を読もうとする読書活動への意欲を高め、持続させる。

イ 読書活動を通じて得た学びを自らと関連付けるためのフレームワークの活用

心に響いた言葉や行動に着目し、そこに込められている思いや信念を読み取る。さらに、それを自分自身と重ねて考えることができるようにフレームワークを活用する。これにより、読書を通じて得た学びや気づきが自分自身と関連付けられ、本を読むことの

価値に気付くことを期待する。

- ② 前述の手立てを効果的に働かせるために、ICT を活用し、児童の考えや学びを共有する場面を設定する。学習活動の特性上、教材としての伝記との対話、自分自身との対話が多くなる中で、ICT を活用した効率的な共有は新たな気づきのきっかけになると考える。

(3) 研究テーマにかかわる評価

- ① 伝記から学んだことを自分自身と関連付け、これからの自分について考えたことをまとめているかどうかを見取る。(フレームワーク、レベルアップシート)
- ② 読書活動の価値についての捉えを調査し、テキストマイニングで単語頻出度を基に分析を行う。(Google フォーム)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

伝記を読み、自分の生き方について考えよう 「やなせたかし—アンパンマンの勇気」
(小学校国語 5 光村図書)

(2) 単元の目標

- ① 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができる。【知識及び技能 (3) オ】
- ② 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
【思考力、判断力、表現力等 C (1) オ】
- ③ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。【(3) オ】	・ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。【C (1) オ】	・ 進んで、物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。

(4) 単元と児童

① 単元について

本単元は、「アンパンマン」の作者であるやなせたかしを扱った伝記である。伝記は、文学的な描写と説明的な描写で構成されており、それらを明確に区別して読むことで、人物の生き方や考え方にふれ、人物像をありありと思い描くことができる。自分を犠牲にしながらも人のために尽くす正義のヒーロー「アンパンマン」を生み出す原動力となった作者の生い立ちや経験などを知り、作者の生き方に共感できる場所を見付け、自分の生き方を見つめ直すきっかけにしたり、新たな考えや理想を抱いたりできることが期待される。

② 児童について

アンケート調査では、「読書をするのが好き」と回答した児童は少なく、読書の価値を感じることができているとは言えない。また、絵本や低学年向けの児童文学作品をお気に入りの本として選ぶ児童が多く、学年相応に本の世界を広げているとも言い難い。

そこで、本単元では、伝記という文種とその読み方を知り、読書活動への興味関心をより一層高めたり、人物の生き方や考え方を自分と関連付けて捉え、読書の価値についての自覚を高める姿を目指す。

(5) 単元の指導と評価の計画（全7時間、本時5／7時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 単元のめあての設定 学習計画の共有 やなせたかしの生き方や考え方を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教師の高校野球での体験談を聞くことで先人や偉人から学ぶことの大切さを知る。 ◎ レベルアップシートを例示し、ゴールへの見通しをもつ。 ◎ 全文を通読し、心に響いた言葉や行動について考える。 	<p>態度 伝記を読むことの意義を考え、単元のめあてを捉えようとしている。</p> <p>【発言・観察】</p> <p>思・判・表 「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。</p> <p>【記述】</p>
2 (5)	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人物の伝記を基に、その生き方や考え方を知る。 人物の生き方や考え方を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 伝記を読み、人物の言葉や行動について、知る。 ◎ 心に響いた言葉や行動から、人物の生き方や考え方について考える。 	<p>態度 進んで、物語の全体像を具体的に想像し、伝記を読もうとしている。</p> <p>【観察】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> これからの自分について考えをもつ。 <p>(本時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 心に響いた言葉や行動を中心に、自分自身に取り入れたいことについて考える。 	<p>思・判・表 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。</p> <p>【記述】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> これからの自分について考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 伝記を読んで考えたことをレベルアップシートにまとめる。 	<p>態度 伝記を読んで考えたことを文章にまとめようとしている。【観察】</p>
3 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 伝記を読んでまとめた考えを伝え合い、考えを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 友達の考えとの共通点や相違点に着目しながら、伝記を読んでまとめた考えを伝え合う。 	<p>知・技 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。</p> <p>【発言・記述】</p>

4 本時の展開（令和6年11月19日実践）

(1) ねらい

人物の生き方や考え方を捉え、これからの自分について考えをもつことができる。

(2) 展開の構想

- 心に響いた言葉や行動を基に、人物の思いや信念、人物が自分たちに何を教えてくれているのかについて考える。
- 今の自分を振り返ったり、これまでの経験やこれからの活用場面を想起させたりすることで、伝記から学び取ったことをこれからの自分に関連付けてどのように生かすか考えることができるようにする。

(3) 展開

時間 (分)	・ 学習活動	○教師の働き掛け ●予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 5	<ul style="list-style-type: none"> 単元のめあてを振り返る。 学習計画を基に、本時の位置付けを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師のレベルアップシートを再提示し、「これからの自分について考える」という本時のねらいを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までに、伝記を読んで見つけた心に響いた言葉や行動を付箋に書き出しておく。
◎先人・偉人の生き方から学んだことを、どのように自分に生かせるだろうか。			
展開 30	<ul style="list-style-type: none"> 書き出した言葉や行動の中から、1つ選択する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><選ぶ視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 一番心に響いたもの 真似したいと思うもの </div> <ul style="list-style-type: none"> 人物の言葉や行動が表れた場面や背景を考える。 人物の言葉や行動に込められた思いや信念について考える。 人物の言葉や行動が自分たちに何を教えてくれるのか考える。 今の自分を振り返り、どのように生かしていくかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 左の5つの活動について、指示を出す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 大記録を達成した試合後のインタビューで語った言葉。 ● 小さな努力を積み重ねていくと、自然と結果は付いてくる。 ● 努力をすれば、結果が出るということ。 ● 基本的なことを続けることの大切さ。 ● 漢字を覚えるのが苦手な練習をしていなかったので、毎日書いて、覚えていきたい。 ● バasketボールを頑張っているの、目標に向かって努力を続けたい。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 選ぶ時の視点を示すことで、自分自身とより関連させながら考えることができるようにする。 ○ 自分が選んだ伝記を手元に用意させ、すぐに伝記に立ち返ることができるようにする。 ○ 人物の言葉や行動を抽象化させるよう声を掛けることで、自分と関連付けやすくする。 ○ 自分が頑張っていることや足りないところ、目指す自分の姿などについて考えさせる。
終末 10	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習で感じたことや気付いたことを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分に生かしたいことを考える活動を通して、感じたことを記述するよう働き掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 態度 活動を振り返り、伝記を読むことの意義を捉えようとしている。【記述】

(4) 評価

- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。

【思考・判断・表現 記述】

③ 先人や偉人から学んだことを自分自身と関連付ける（第5時）

単元の導入で例示したレベルアップシートを再び示し、これまで書き溜めてきた先人や偉人の言葉や行動を、本時の活動を通して自分自身と関連付けるという意識をもたせた。複数の付箋の中から、自分自身に取り入れたい考え方や信念を1つ選び、その言葉が発せられた場面や背景を考えたり、自分なりの解釈をしたりした。その際の思考の枠組み（フレームワーク）として以下の項目を設定することで、その言葉や行動を自分自身と関連付けて考えられるようにした（図4）。

- | |
|----------------|
| ① 場面・背景 |
| ② 込められている思い・信念 |
| ③ 教えてくれること |
| ④ 今の自分 |
| ⑤ 自分に生かす |

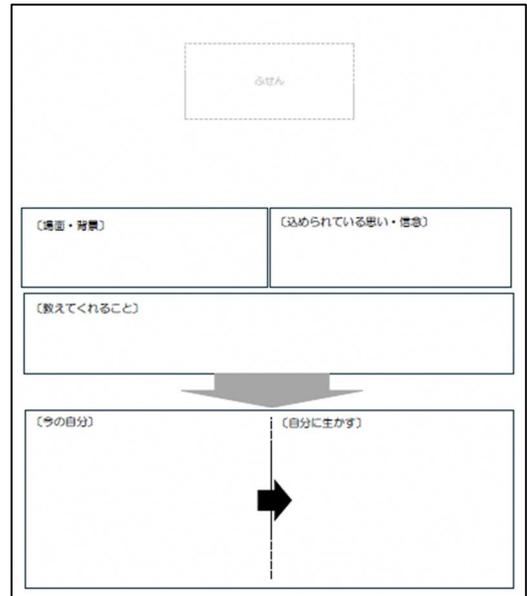


図4 考えを整理するためのフレームワーク

児童は、先人や偉人の言葉や行動から学んだことを、いかに自分自身に生かせるかについて、上記のフレームに沿って思考を整理していた（写真1）。自分が頑張っていることや自分の足りないところ、理想の姿などを考えた上で、具体的な行動や場面をイメージしながらレベルアップした自分を思い描いている様子が見られた。以下、児童の振り返りからの一部抜粋である。



写真1 活動の様子

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・失敗した時に言い訳をしてしまうので、ミスをしてでも自分が納得できるだけの準備をしていきたい。 ・すぐに人の真似をしてしまうので、頑張って自分で考えていきたい。 ・サッカーの試合で、強い気持ちをもってプレーしていきたいと思った。 |
|--|

④ レベルアップシートにまとめる（第6時）

フレームワークを活用して整理した考えをレベルアップシートに記入し、文章化した。前時に使用したフレームワークとレベルアップシートの各項目につながりをもたせたことで、児童はスムーズに書き込むことができていた。しかし、それぞれの児童が作成したシートの内容を概観すると、「苦手な人とはあまり関わらないようにしてしまっていたが、よいところを見つけて誰とでも仲良くしたい」など、自分と関連付けた記述が見られた一方で、自分との関連付けが十分でないと思われる記述も一定数見られ、自分自身とどれほど関連付けながら考えることができていたかという思考の深さには差が見られた。

⑤ 伝記を読んで考えたことを伝え合い、考えを広げる（第7時）

本単元の特性上、読書活動や思考の整理、シートの作成など、個人での活動が多かった。そこで、作成したレベルアップシートをムーブノートで共有しながら伝え合い、考えを広げる場を設定した。互いにコメントを送り合うことで称賛の場とし、実践への意欲につながるように活動を行った。

(2) 研究テーマに関わって

本研究で講じた手立てに沿って、実践の成果を記述する。

① 読書活動に対する意欲を高め、持続させるためのゴールの設定

読書活動への意欲があまり高くない児童に、本を読むことの価値を感じさせるための手立てとして、教師自身の経験を教材として取り上げることで、伝記のよさを感じられるようにした。このことは、単元の導入での児童の振り返りから、「伝記って面白そうだな」「伝記を読むことは、自分にとってためになりそうだな」という認識をもたせることにつながったことが読み取れる。

<児童の振り返りから>

- ・「どうしても誰かを助けたいと思う時、本当の勇気が湧いてくるんだ」というやなせたかしさんの言葉が心に残った。これからも伝記を読んで、このような言葉を探していきたい。
- ・伝記は、その人の人生について詳しく知れると分かって、面白いと思った。他の人の伝記も読んでみたい。

また、その後の読書活動の様子から、様々な人物に関心を向け、本を読もうとする姿からも、読書活動に対する意欲をもたせることができていたと考える。これは、スポーツ選手や音楽家、発明家、学者など、幅広い分野の人物の伝記を揃えたり、読書活動に没頭できる時間を確保したりするという「読書環境の整備」に取り組んだことも寄与しているのではないと思われる。加えて、教師が作成したレベルアップシートを例示してゴールの具体的なイメージを掴ませたことで、読書活動を通して自ら学びを進め、課題を解決するための学習過程を明確に意識することができた。

② 読書活動を通じて得た学びを自らと関連付けるためのフレームワークの活用

心に響いた言葉や行動を自らと関連付けて考えるために設計したフレームワークには、次の2つの点で効果が見られた。

1つ目は、人物の言葉や行動についての自分なりの解釈を形成することである。人物の置かれている状況や場面、それまでの経緯など、その言葉を発するに至った背景を考えることで、人物が抱いている思いや信念を読み取った。その上で、その言葉が自分に教えてくれることは何か（解釈）を考える過程で抽象化され、自分自身と関連付けやすくなることができたと考える。

2つ目は、解釈したことを人物のステージから自分のステージに落とし込むことである。伝記で取り上げられている先人や偉人の人生での出来事を自分の人生に関連付けようとした時、その間には一定の隔りがある。そこで、「今の自分」というフレームを用意することで、スポーツで活躍する自分を思い描いたり、自分の欠点を捉え直したりして、解釈したものを自分自身にどのように生かせるか考える様子が見られた。

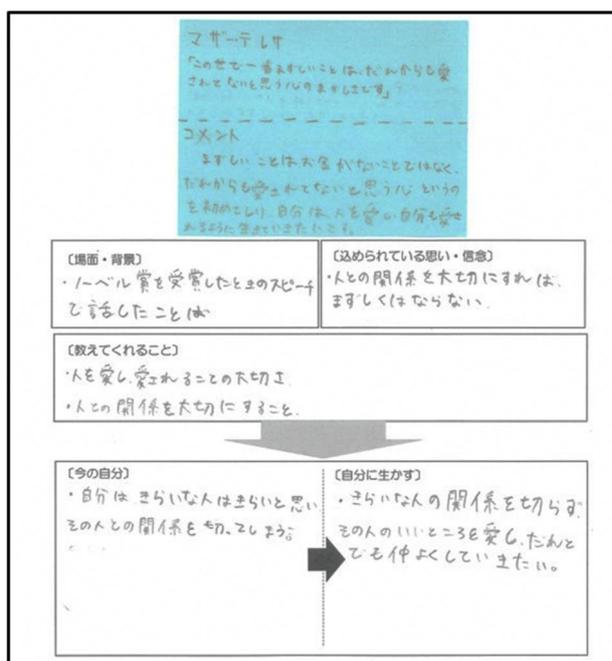


図5 児童のフレームワーク

③ ICT を活用した考えの共有

レベルアップシートを作成した後、読書活動を通してそれぞれが考えたことを共有した。共有にあたり、ICT（ムーブノート）を活用することで、近くの児童だけでなく、より多くの考えを知ることができ、共有の効率化という点における ICT の有効性を改めて感じた。送り合ったコメントの内容は、同じ人物を選んでいても解釈が違っていたり、自分では思いつかないような考えが書かれていたりして、それぞれの考えのよさを感じながら記述している内容が多かった。多様な感じ方や価値観にふれ、考えを広げるための一助となった。また、お互いのシートに対して共感や称賛のコメントを送ることで、個々の考えが価値付けられ、実践していこうという意欲につながったと考えられる。

＜交流場面でのコメントより＞

- ・私もネガティブに考えてしまうことが多いので、マザーテレサが言うような「貧しい心」をなくしていきたい。
- ・Aさんと同じように、周りの人を励ましていける人になりたいと思いました。

上述の手立てに加え、実践の前後で行ったアンケート調査の結果から、本学習活動を通して読書の“知的な利点”と“情意的な楽しさ”を感じ、読書のよさへの捉えに若干の変化が見られたことが分かる。「本を読むことについて感じていること」を問う質問に対する事前と事後のアンケートでの単語頻出度を比較すると、事前に比べて「知れる」「感じる」という単語が事後に多く見られたことが分かる（図6）。これは、読書活動を通して様々な知識を獲得することができる“知的な利点”を感じることで、本の中の世界観に入り込んだり、登場人物になりきったりすることを通して“情意的な楽しさ”を味わうことができたからであると考察できる。また、「漢字」「プラス」「便利」という単語が事後アンケートでのみ出現したことからも、読書活動が自分にとって役立ったり、ためになったりするなどのメリットを感じられたことが分かる。

事前だけに出現	事前によく出る	両方によく出る	事後によく出る	事後だけに出現
気持ち 入り込む 考える 飽きる いい ほしい 短い 長い きる ちゃう なれる 出る 当てはめる 落ち着く 起きる スポーツ リラックス 予想 全部 再現 冒険 勉強 大好き 展開 得 技 本屋 気分 理解 登場人物	小説	面白い 本 読む 思う 楽しい 入る 好き 世界 良い 夢中 できる いろいろ 分かる 内容 漫画 物語 言葉 頭	感じる 知れる	よい すごい 少ない 怖い 細い 難しい 面倒くさい しまう 聞こえる 声 漢字 面白い本 つくす 伝わる 使う 入れる 助かる 楽しめる 知る 見つける 覚える 調べる びっくり アニメ テレビ プラス ホラー 世界観 伝記 便利

図6 実践前後におけるアンケート
（「本を読むことについて感じていること」）での単語頻出度の比較

(3) 今後の課題

本実践の中で、伝記から学んだことと自分自身との関連付けができていない児童がいる一方で、そのつながりが浅い児童も見られた。その原因として、複数ある付箋の中から1枚を選ぶ際の明確な視点を十分もてていなかったことが挙げられる。全員で同一の伝記を読む段階（第1時）で、場面や背景とともに人物の言葉や行動を捉えるという意識をより高めておくことで、その言葉や行動に込められた人物の思いや信念をしっかりと捉え、自分に必要なものや自分につながるものを選択できたのではないかと考える。

＜参考・引用文献＞

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編」、2018.2
- ・中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」、2016.12